

この本知ってる？ 中・高生版 R2

ここに紹介した本は、図書館にあります。読みたい本がみつかったら、中央図書館2階ヤングアダルトコーナー、依知北・睦合北・小鮎・荻野・森の里・玉川・相川・睦合西・南毛利の公民館図書室に来てください。

本は、ひとり10冊、2週間借りられます。読みたい本が貸出中のときは、インターネットや電話、窓口で予約してください。上記以外の公民館の事務室で予約図書を受け取ることもできます。

家の近くの公民館をぜひ利用してね！

◆読んでみよう◆



『犬と、走る』

本多 有香／著 集英社インターナショナル

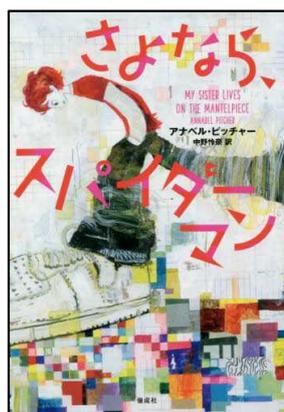
「犬ぞり師」に憧れて単身カナダへ。電気も水道もない自作の小屋で犬と生活しながら、世界一過酷な犬ぞりレースに挑戦し、極寒1600キロを日本人女性として初めて完走した。犬を愛し信頼し、厳しい環境でチャレンジし続ける本多さん。守り人シリーズ（上橋菜穂子作）の主人公バルサを彷彿とさせる、強く賢くそして繊細な姿にひきこまれる。

『奏のフォルテ』

黒川 裕子／著 講談社

遠峰奏は吹奏楽コンクールの全国大会常連校でホルンを吹いている。

音楽の才能を持つがゆえに、音程やリズムの合っていない他人の演奏を拒絶し、辛辣な言葉をぶつけ人間関係を壊してしまう。世界で通用する独奏者を夢見てニューヨークへ向かい、ホルンの神様アプトの前で演奏し「きみの音には愛がない」と言われてしまう。奏は愛を見つけられるのか。



『さよなら、スパイダーマン』

アナベル・ピッチャー／著 中野 怜奈／訳 偕成社

5年前、10歳だった姉さんのローズは、イスラム過激派のテロで亡くなった。父さんは酒におぼれ、やがて母さんは家を出て行った。ぼくたち家族は、つらい思い出ばかりのロンドンを離れ、地方に引っ越した。新しい学校でとなりの席になったのは、イスラム教徒の女の子。彼女と出会ったことで、ぼくの気持ちや生き方も変わっていく。

『そば打ち甲子園！』 そば打ち研究部／著 学研プラス

亜美が通う女子高は、今年の4月から「部活動推進校」に指定され、全員が部活動に入ることになった。部活動に入っていない亜美は、どこの部に入ろうか悩んでいると、クラスメートの玲から、休眠中の部を復活させないかと誘われました。その部はなんと「そば打ち部」。最初はとまどう亜美でしたが、そば打ち全国大会があることを知り、大会に向け、走り出します。

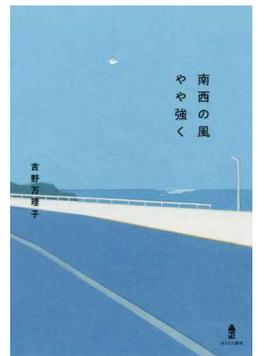


『天使のにもつ』 いたう みく／著 丹下 京子／絵 童心社

明功中学校の2年生は、6月に5日間の職場体験を行うのが決まりだ。風汰は、体験希望先を「エンジェル保育園」にした。子どもとあそんでいればいなんて、ラクそうだと思ったからだ。しかし、職場体験が始まると、0歳から5歳まで、50人の園児が待っていた。「なんだってオレ、こんなとこ選んじゃったんだろっ。」

『南西の風やや強く』 吉野 万理子／著 あすなろ書房

舞台は湘南・鎌倉。12歳の僕は、親に言われるままに難関中学をめざしていた。ある日、後に親友となる同級生の多朗と衝撃的な出会いをする。公立中学へ進学し、部活に励み、15歳の僕には気になる女の子も出現する。親友とは別々の高校になってしまうが、彼女とは一緒に下校する仲に。しかし、父親が病気に、彼女も病気に、18歳の僕は乗り越えられるのか。



『初恋まねき猫』 小手鞠 るい／著 岡田 千晶／装画 講談社

中学2年生の「龍樹」には、自ら命を絶った姉がいた。姉の部屋に残されたノートには、姉の気持ちの込められた詩が綴られていた。小学5年生の「しおり」には、生まれてすぐ亡くなった弟がいた。「本当の私を誰も知らない」と思っているしおり。そんなふたりをつなぐのは、猫の「アンジュ」と「サージュ」。どんな結末が待っているのでしょうか。

『フォックスクラフト 1 アイラと憑かれし者たち』

インバリ・イセーレス／著 金原 瑞人／訳 井上 里／訳 静山社

ニンゲンが住む「うなりの地」の近くで、家族と幸せに暮らしていたキツネの女の子、アイラ。ある日、見知らぬキツネの集団にすみかを襲われ、家族全員が消えてしまう。キツネに伝わる不思議な力「フォックスクラフト」の使い手、シフリンに助けられたアイラは、家族を探しにいくことにする。

もふもふ好きな方におすすめのファンタジー。全3巻。



◆調べてみよう・考えてみよう◆

『くらべる日本 東西南北』

おかベ たかし/文 山出 高士/写真 東京書籍

「スコップとシャベル」。関東と関西では何と意味が逆になるんです。関西では「スコップ」は子どもが砂場遊びで使うような小さいものを指し、「シャベル」は大きいものを指すですって。ほかにも、「イカの塩辛」「鎌」「駐車場」など、いろいろなものについての地域での違いを紹介しています。



『ことばハンター 国語辞典はこうつくる』

飯間 浩明/著 ポプラ社

飯間さんは、国語辞典を作る人だ。街にでかけたときも、看板や掲示板、レストランのメニューなどを観察し、「天扶良」「スパ」「オム」など、知らない言葉や、新しい言葉を探している。言葉の意味の説明を書くのも仕事だ。わかりやすく、時代に合った説明を書くことが大事なのだ。例えば、「牛タン」「お取り寄せ」などをどう説明する？

『これがオリンピックだ 決定版 オリンピズムがわかる 100の真実』 舛本 直文/著 講談社

きみは、オリンピックについてどこまで知っている？ オリンピックのはじまりは？ 「オリンピズム」の思想とは？ 幻のオリンピックとは？ マラソンは、なぜ 42.195 キロなのか？ 国別のメダルランキングは許されていない？ 文化プログラムとは？ オリンピックイヤーに読みたいオリンピック事典です。



『脱・呪縛』

鎌田 実/著 こやま こいこ/絵 理論社

人間にとって一番大切なものは「自由」。

環境の呪縛、他人からの呪縛、自分で自分を縛ってしまう呪縛。みんな、ナニかに縛られている。それに気づき、解き放ち、どうやって自由になるか。誰にでも通用する正解があるわけではない。でも、こんなにいろいろな呪縛の壊し方、考え方があったら、と知ってほしい。

『探検！ものづくりと仕事人 チョコレート菓子・

ポテトチップス・アイス』 戸田 恭子／著 ペリかん社

みんなが好きなチョコレート菓子・ポテトチップス・アイスは、私たちの口に入るまでに、様々な人達の手によって作られている。商品開発を行い、味や作り方を調査し、原材料を調達し、生産方法や技術を考案し、商品売り込む。この本には、実際にその仕事に携わっている人へのインタビューや、仕事の内容・やりがい・苦労話がかかれてい



『どうして海のしごとは大事なの？』

「海のしごと」編集委員会／編 成山堂書店

海に囲まれている日本では、食料や資源を、海外からの船による輸入に頼っている。この本では、造船所、船長、機関長、航海士、海運、海上保安官や自衛官、海洋調査など、17の「海のしごと」を紹介しています。実際に働いている人に、仕事の内容、意義、仕事を選んだ動機、やりがいなどを聞きました。



『「文系？」「理系？」に迷ったら読む本

AI時代の進路の選び方』 竹内 薫／著 PHP 研究所

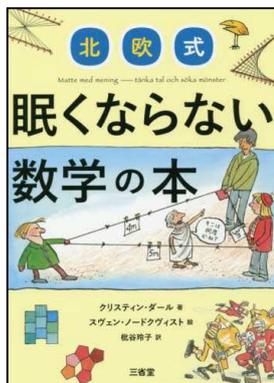
人工知能やロボットの普及が進み、将来なりたいと思っている職業がなくなっているかもしれません。「進路で文系か理系か迫られても、決める方法や時間がないし、得意な方で決めて良いの？」そんな「どうしよう？」の不安を一つ一つ解消するヒントをくれます。好きなものを探求するのも進路を決めるヒントのひとつです。とことん探求してみよう。



『北欧式眠くならない数学の本』 クリスティン・ダール／著，

スヴェン・ノードクヴィスト／絵 枇谷 玲子／訳 三省堂

「数学は苦手」「数学なんか勉強しなくても困らない」そう思っている人は、たくさんいると思う。でも、この本を読むと、ちょっと考えが変わるかも。数百年たてば、岩もすり減ってしまうけど、 $2+2=4$ なのは何百億年たっても変わらない。編み物の模様も数学。ひまわりの種がうずまきになっているのも数学。「数学はそこら中にある」



*中央図書館 2階 ヤングアダルトコーナーのご案内

2階の開館時間 午前9時から午後7時まで

お休みの日 施設保守日

年末年始 本の整理のとき ほか

育てよう
「読書大好き
あつぎっ子」

あゆみ

